

2026年9月18日 社長会見要旨

【会見要旨】

本日は、「安定供給と脱炭素の両立に向けた供給力確保の取り組み」についてお話しします。

お手元の資料の1ページをご覧ください。北海道では、Rapidus 株式会社の次世代半導体工場やソフトバンク株式会社の大型データセンターなどの GX 産業立地が進展しており、中長期的な電力需要の増加が見込まれています。こうした状況の中、ほくでんグループは、泊発電所の再稼働や再エネ電源の導入拡大に加え、石狩湾新港発電所2号機および3号機の建設など供給力の確保に向けた取り組みを進めるとともに、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、電源の脱炭素化への対応を行ってまいります。本日は、その取り組みについてご紹介します。

2ページをご覧ください。泊発電所についてです。まず初めに、8月18日に泊発電所構内で発生しました死亡災害について、改めて、お亡くなりになられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げるとともに、ご遺族の皆さまに心よりお悔やみ申し上げます。当社としましては、二度とこのような痛ましい事故が発生しないよう、このたび取りまとめた再発防止対策を徹底するとともに、協力会社も含め、安全管理体制の一層の充実強化を図ってまいります。3号機の再稼働に向けては、2027年8月の完成を目指している防潮堤工事をはじめとする安全対策工事について、安全確保を最優先に総力を挙げて取り組み、2027年のできるだけ早期に再稼働を実現できるよう対応を進めてまいります。

3ページをご覧ください。再エネ電源については、2035年度までに300万kW以上の開発規模を目標とし、幅広い電源開発を進めています。2026年2月には、苫小牧市で建設を進めていたバイオマス発電所が、営業運転を開始しました。風力発電については、現在、洋上・陸上ともに様々な地点において環境アセスメント手続きを進めているところです。特に洋上風力発電については、北海道が国内有数の導入ポテンシャルを有する地域であることから、導入拡大に向けて精力的な検討を進めています。今年6月には、全社横断組織として「洋上風力推進本部」を設置し、迅速かつ効率的な開発に関する検討や事業環境整備に向けた体制を強化しました。さらに7月には、取り組みの第一弾として、「道南洋上風力プラットフォームズ株式会社」を設立し、人材育成、地域との連携強化など、将来の事業展開に向けた基盤づくりにも取り組みを進め、道南地域における洋上風力発電の早期実現を図ってまいります。

水力発電については、奥新冠発電所で、未利用であった融雪期等の放流水を有効活用する取り組みを進め、今月 15 日、最大出力が増加しました。このほか、経年化した水力発電所のリプレイスも順次進めており、貴重な水資源を最大限活用すべく取り組んでいます。また、純揚水式水力の京極発電所 3 号機については、2035 年度以降としていた運転開始時期を 2031 年度に前倒すことで、需給調整機能の強化を図り、再生可能エネルギーの導入拡大に貢献したいと考えています。

4 ページをご覧ください。将来的な火力発電の脱炭素化を目指し、アンモニアや水素といった脱炭素燃料への転換などを進めてまいります。苫東厚真発電所 4 号機では、アンモニア混焼に向けた検討を進めており、2030 年度に石炭燃料の 20%を、2032 年度には 40%をアンモニアへ転換していく予定です。CCUS の活用も合わせて行っていくことで、さらなる脱炭素化を目指してまいります。また、中長期的な需要増加への対応として、LNG 火力である石狩湾新港発電所については、2 号機が 2030 年度、3 号機が 2033 年度に運転を開始する計画としています。2 号機においては、8 月に発電設備の建設工事を始めたところであり、着実に建設を進めてまいります。運転開始時には、LNG のみを燃料とする仕様としていますが、将来的には水素への燃料転換を段階的に行っていく考えです。5 ページをご覧ください。2050 年のカーボンニュートラルへの貢献や、将来的なエネルギー需要の増加への対応のため、苫小牧・厚真地域を起点とした新たなエネルギーサプライチェーンの構築を図ってまいります。6 ページをご覧ください。アンモニア、水素といった次世代エネルギーや GX 実現に向けた先端技術の一つである CCUS の社会実装に向け他の事業者と共同検討を進めているところです。アンモニアサプライチェーンの構築については、国から「価格差に着目した支援」や「拠点整備支援」の認定をいただいたところであり、こうした制度も活用しながら、事業化に向け取り組んでまいります。

7 ページをご覧ください。ガス事業への本格的な参入に向けて、石油資源開発株式会社から、道内におけるガス製造事業、販売事業および導管事業を譲り受けることとしています。現在、必要となる準備を進めており、今年度内の事業運営開始を目指してまいります。さらに、中長期的な電力需要増加への対応などの観点から、次期 LNG 火力発電所および LNG 基地の設置に向けた検討や環境影響評価手続きに向けた事前調査を進めています。

ほくでんグループといたしましては、これらの取り組みを着実に進めることで、電源の脱炭素化を図りつつ、北海道におけるエネルギー供給の担い手として電力の安定供給の責任をしっかりと果たしてまいります。

私からは以上です。